

西 彼 保 健 所 感 染 症 情 報

令和7年 第 45 週 令和7年11月3日 ～ 令和7年11月9日

全数把握対象感染症 発生状況

※報告日週掲載 （県作成速報：診断日週掲載）

一類感染症	報告なし
二類感染症	【第45週】 結核 患者 1名（80代・男性）
三類感染症	報告なし
四類感染症	報告なし
五類感染症	報告なし

定点把握の対象となる5類感染症発生状況（定点医療機関当たり患者数） ↑;前週より増加 ↑↑;2週連続増加 ↑↑↑;急増

疾病名	週別 発生状況		基準値			疾病名	週別 発生状況		基準値		
			警報レベル		注意 報レベ ル				警報レベル		注意 報レベ ル
	44 週	45 週	開始	終息			44 週	45 週	開始	終息	
インフルエンザ定点	1.40 流行	2.60 流行	30	10	10	突発性発しん	0.00	0.33 ↑			
COVID-19	1.40	0.20				ヘルパンギーナ	0.00	0.00	6	2	
急性呼吸器感染症（ARI）	89.60 ↑↑	90.40 ↑↑				流行性耳下腺炎	0.00 ↑	0.00	6	2	3
R Sウイルス感染症	1.00	0.33				急性出血性結膜炎	0.00	0.00	1	0.1	
咽頭結膜熱	0.33	0.33	3	1		流行性角結膜炎	1.00 ↑↑	0.00	8	4	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.67	1.33	8	4		細菌性髄膜炎	0.00	0.00			
感染性胃腸炎	3.67	5.33 ↑	20	12		無菌性髄膜炎	0.00	0.00			
水痘	0.00	0.00	2	1	1	マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00			
手足口病	0.33	0.00	5	2		クラミジア肺炎	0.00	0.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）	2.67 警報	2.33 警報	2	1		感染性胃腸炎 （ロタウイルス）	0.00	0.00			

トピックス・季節情報

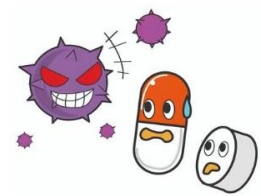
11月18日～24日は「世界薬剤耐性（AMR）啓発週間」です



参考：国立健康危機管理研究機構

世界保健機関（WHO）では毎年11月18日から24日を世界薬剤耐性啓発週間（World AMR Awareness Week）として定めており、日本においても平成28年度から毎年11月を「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」として定め、薬剤耐性に関する全国的な普及啓発活動を推進しています。

今年の「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」のテーマは「かぜに抗菌薬は効きません」です。



【私たちができること】

●処方された抗菌薬は医師の指示通り服用しましょう

※抗菌薬を「あげない」「もらわない」「取っておかない」

自己判断でのんだり、医師の処方を守らないと、治らないばかりか副作用が出たり「薬剤耐性菌」が生じて、感染症の治療や予防の妨げになります。

※抗菌薬は細菌に対する薬なので、ウイルスによって起こる風邪には、抗菌薬を飲んでも意味がありません。

●基本的な感染対策をしましょう

●予防が大切です「手洗い・ワクチン」

※日々の手洗いを心がけ、必要なワクチンはきちんと接種し、予防できる感染症にかからないように努めましょう。

マイコプラズマ感染症に注意しましょう



管内の一部の学校でマイコプラズマ感染症の発生が確認されています。

「肺炎マイコプラズマ（Mycoplasma pneumoniae）」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症で、秋冬に増加する傾向があり、再感染もよく見られます。

主な症状は発熱や全身の倦怠感（だるさ）、頭痛、せきなどの症状がみられます。せきは熱が下がった後も長期にわたって（3～4週間）続くのが特徴です。潜伏期間は長く、2～3週間くらいとされています。

普段から流水と石けんによる手洗いをするのが大切です。また、感染した場合は、家族間でもタオルの共用は避けましょう。せきの症状がある場合には、マスクを着用するなど“咳エチケット”を守ることを心がけましょう。

※マイコプラズマ肺炎は基幹定点（患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を2次医療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定）報告のため、実質的な報告数より少ない場合があります。